

沖縄南部戦跡地の土砂を辺野古埋め立て用に採取してはならない

OCC 総会声明

2021年2月28日 沖縄キリスト教協議会(OCC)

私たち沖縄キリスト教協議会(OCC)は、辺野古新基地建設に初めから反対してきました。辺野古新基地建設の従来計画では、埋め立て用土砂の多くを県外から調達し、県内の採取場所は本島北部のみとなっていました。変更後は離島を含む県内全域に拡大。仮定している採取量を大きく上回る土砂の調達は、県内で可能としています。

県内の地区別でみると南部地区（糸満市、八重瀬町）で土砂の調達可能量の約7割を占めています。南部では現在も多くの沖縄戦犠牲者の遺骨が未発掘で、採石場などで土砂を採取すれば遺骨が含まれる可能性があり、埋め立てに使われることで失われてしまう恐れがあります。

これまで約40年間、遺骨の収集や遺族への返還に取り組んできた沖縄戦遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」代表の具志堅隆松さんは「戦没者の遺骨を、軍事基地を造るために海の埋め立てに使うことは許されない。犠牲者に対する冒瀆だ」と語ります。「骨が含まれていなくてもおびただしい犠牲者が出た地域の土や岩を、戦争に出撃するための基地の建設に使うこと自体が不謹慎で、犠牲者の遺志に背くのではないか。県外出身で、沖縄戦で亡くなった人もたくさんいる。沖縄の遺骨問題は全国の遺族の問題でもある」とも訴えています。

特に糸満市の土砂採取候補地は政府が保護し、沖縄県が管理する沖縄戦跡国定公園内に位置し、土砂が採取された場合、戦没者の遺骨がうずもれた土台の上に新基地を建設することになります。政府がすべきことはこの地を慰霊追悼の場として保全し、丁寧に遺骨を収集し戦争の悲惨さを伝えていく場にすることです。

私たち沖縄キリスト教協議会は以上のことから沖縄南部の戦跡地を土砂採取のために開発すること、および辺野古埋め立てのために土砂採取することに反対します。